

妊婦検診の拡大を

久保田町議

妊婦健康診査事業について尋ねます。

本町の妊婦健康診査は、14回、総額10万円となっていています。妊婦さんの幸せで安心できる出産と、赤ちゃんの健康な誕生のために健康診査の2回目にサイトメガロウイルス及びトキソプラズマ抗体検査を追加する考えはありませんか。

町長

どちらの感染症も、妊娠中に感染すると流産、死産だけでなく、水頭症や網脈絡膜炎や肝脾腫などを引き起こし、視力障害や発達障害等の後遺症を残すことがあると言う事である。

現在の妊婦健康診査は、厚生労働省からの基準に基づいて設定されており、本町だけがこの項目を追加することはできないと考えている。

久保田町議

平成25年11月に、長崎県医師会長と、長崎県産婦人科医師会長から、第2回目に先天性サイトメガロウイルス、先天性トキソプラズマ症の抗体検査をいれてほしいと言う要望書が上がってきていると思いますが、ご存知ですか。



町長

すでに承知しているが、町村会では、それにはまだ対応しないと言う決定がなされている。

妊婦健康診査については、川棚町だけで検査項目を追加する事は事務処理上できない状況であり、理解をいただきたい。

久保田町議

事務処理ができないのでやれないと言うのはおかしい。

安倍首相も子どもを産んでほしいと呼び掛けている。早期に見つけて早期に治療すれば医療費だって少なく済みます。他市町に呼び掛けていって下さるという事ですか。

町長

今後、厚生労働省から基準が示されてくるのではないかと思っている。そうなれば、全市町村で対応できるので、実現できるのではないかと思っている。

久保田町議

厚生労働省が動きを速めないようでしたら、県内一緒になつて要望書を上げていただきたいと思います。

第2子の保育料の無料化を

久保田町議

現在、本町の第二子の保育料は、認定子ども園及び保育所に二人以上在園しなければ無料ではありません。

兄や姉が小学校、中学校に入学しても、第二子以降を無料にする考えはありませんか。

町長

国の基準では、第二子目半額、第三子以降無料としているのに対し、本町では同一世帯から二人以上在園している場合、第二子以降は無料として町独自の支援を行っている。

若い世代にとって保育料が経済的に大きな負担となっていることは十分理解している。

本町でも少子化対策や子育て支援として支援できればと思っているが、財政的にも困難であり、第二子以降を無料にする考えはない。

久保田町議

若い世代の方たちの暮らしは大変厳しい状況にあります。今年度も国民健康保険税が上がりました。

子どもを産んで育てやすい環境を作らなくては、町が望むような事にはなりません。上の子が卒業すると、新たな教育費が

かかります。保育所に一人残っている子も支援すべきと考えます。

町長

国の改正で、年収360万未満の世帯でこれまでは小学六年生からカウントして第二子半額、第三子無料とされていたが、第一子が何歳になっても第二子が在園していれば半額になると言う通知を受けている。

久保田町議

国の制度には、360万と言う所得の制限があります。本町の場合は所得の制限がありません。

この制度の良いところは認めます。しかし、第二子は第二子として認めるべきだと思います。

町長

全体の町の財政状況を考えながら最善の努力をしている。ご理解いただきたい。

久保田町議

子どもたちが税金を納める時が来れば、もっと大きく町に貢献することができると思っています。

お母さんたちが安心して産み育てられるように努力してもらいたい。

熊本地震の災害支援募金にご協力を

4月14日夜におこった熊本地震は、今なお余震が続き、被害は大きく広範囲になってきました。

全国各地で支援物資の調達や募金活動が行われています。

日本共産党は、熊本地震の被災者支援のための募金を受け付けています。

お近くの党员、または久保田町議へお申し出ください。

無駄なダムに

巨額の税金は使わせない

久保田かずえ町議は平成28年度川棚町一般会計に反対をしました。

総額280億円と言う高額な税金を使ってまで、そして、現に今もって居住している方たちの生活基盤まで奪ってまで建設する「公共性」「公共の福祉」の実現が石木ダムにあると言えるのか。どんな土地で、どんな生活を送り、どんな人生を送るか、日本国憲法のもとで決して奪われない人権でありお金で保障はできません。

川原の自然は川棚町の財産です壊してはなりません。また、住民の方たちの人権も壊してはなりません。